



「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第31号をお届けします。

今回は、国際委員会からの広報、10月下旬に台湾で開催されたISAP2008の報告、3月に愛媛大で開催される2009年総合大会においてAP研が主催するシンポジウムについてお知らせします。

【1】 訃報

東工大名誉教授で、電子情報通信学会アンテナ・伝播研究専門委員会の元委員長、現在AP研顧問であられた関口利男先生が、11月17日午後、ご逝去されました。85歳でした。心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

【2】 国際委員会からの広報

国際委員会の活動状況について、国際委員会の長幹事（NTTドコモ）より報告していただきます。

近年のAP研の活動は国内での活動にとどまらず、特にアジア諸国の研究者と協力し活動の活性化および国際化を行ってきています。AP研国際委員会は、海外と連携したAP研の活動の企画提案や方針議論を行い専門委員会に提案するとともに、AP研執行部と連携してAP研の海外活動の運営を行うことを目的に設立された委員会です。AP研の海外活動の代表的なものとしては、国際会議の主催、毎月行っている研究会の海外での開催、ワークショップの開催等があります。

国際会議は国内の技術を海外研究者にアピールする場であるとともに、海外研究者と最新研究動向を議論する場であり、学会において非常に重要な活動です。AP関連技術では1971年よりISAP(International Symposium on Antennas and Propagation)を電子情報通信学会主催で開催しています。AP研もISAP開催には毎回大きく貢献してきており、ISAPは今やアンテナ・伝播関連技術における世界の3大会議に位置づけられる会議に成長しました。2004年からは毎年開催となり、2005年からは日本国内だけでなく、2005年には韓国、2006年はシンガポール、2008年は台湾とアジア各国で開催されています。今後は2009年10月にバンコク(タイ)、2010年にマカオ、2011年に韓国済州島での開催が予定されています。ISAP以外の国際会議としては、本年3月にIEEE APS Japan Chapter主催により千葉大学にて開催されたiWAT2008(2008 International Workshop on Antenna Technology)にも協賛し、国内外から沢山の投稿が集まりました。

研究会の海外開催は現地研究者との交流を目的に、1997年のバンコク(タイ)での開催に始まり、2000年に西安(中国)で、2007年に桃園(台湾)で開催されています。2009年3月にはマカオでの開催が予定されています。マカオ開催の研究会の申込締め切りは1月10日です。皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

また韓国研究者との間では研究者間の親交を深める目的で、アンテナ・伝播、環境電磁工学、電磁界理論に関する日韓合同会議(KJJC)を2001年、2004年に韓国にて、2006年に日本(金沢)にて開催してきました。近年では、2008年1月および7月に開催されたAP研の研究会および2007年9月および2008年9月に開催された韓国の総合大会(Autumn Microwave and Radio Conference)にそれぞれ特別セッションを設置し両国の研究者が参加をして技術交流を行っています。

AP研では、今後アジアの研究者を中心に海外の研究者との交流を促進できるような場を皆様に提供していただけるように活動していきたいと考えております。国際会議などの最新情報はAP-NETやAP研ホームページにて随時配信・掲載していきます。皆様の積極的な参加をお待ちしております。また国際委員会の活動に関しましてご意見・ご要望がございましたら、ぜひAP研役員、委員等へお知らせください。

【3】 2008年アンテナ伝播国際シンポジウム(ISAP2008)

10月下旬に台湾で開催されたISAP2008はISAPとして13回目となります。31の国・地域から412名が参加し、400を超える論文が発表され、盛大かつ成功裏に開催されました。日本からは会議参加者の約4割となる169名が参加しました。今回、特にRFID関連技術についてProf. R. Mittraによるキーノート

スピーチのほか、アンテナ・測定技術・アプリケーションなどに関して7つのセッションが設けられたのが特徴的でした。その他のキーノートスピーチとしては、Prof. S. T. Peng より台湾におけるマイクロ波関連技術の展望、Prof. P. Hall よりコグニティブ無線用アンテナ、伊藤公一教授より医用アンテナ技術の最新動向に関する講演が行われました。また Best Student Paper Award および Best Paper Award については、それぞれ 40 件程度の Finalist が選定され、会期中に口答発表とともにポスタ発表によるコンテストが実施されました。最終日の夜に故宮博物館横のレストランで開催されたバンケットにて Award の授与が行われ、Best Paper Award の 1st~3rd Prize には全て日本からの発表が受賞しました。

- (1) 日時：2008 年 10 月 27 日（月）～30 日（木）
- (2) 場所：Taipei International Convention Center (TICC), Taipei, Taiwan
- (3) 主催：Yuan Ze University and Oriental Institute of Technology
- (4) 会議構成
一般セッション数：73, 特別セッション数：9
総発表論文数：430（一般・特別セッション）, キーノートスピーチ：4
ショートコース：5
企業展示：13 社, IEEE APS Chapters & 台湾内の大学展示：16 ブース
- (5) 登録：412 名（31 カ国／地域）
（日本：169, 台湾：120, 韓国：27, タイ：9, 米国：9）

【4】2009 年総合大会シンポジウム（投稿募集のご案内）

アンテナ・伝播研究会では、MICT 研究専門委員会と当研究会の第二種研究会である人体周辺の電波利用技術時限研究会と共同で「人体周辺の電波利用に関する最新技術動向」と題したシンポジウムセッション（オーガナイザー：前山利幸先生（拓殖大））を開催することとなりました。皆様には、積極的な投稿をお願いするとともに、当日の会場にて活発な議論をお願い致したいと思います。なお、締め切りは一般講演と同じく、1/7(水) 17:00となっております。

<提案主旨> 人体通信を含む人体周辺の電波利用技術は、多方面に渡る。ユビキタス医療では、体内センサーからのテレメタリングのため、電磁波を利用した体内・外通信とそのネットワークであるボディエリアネットワーク（BAN）の標準化が進んでいる。ユビキタスネットワーク社会では、人体周辺での電磁波利用がますます増えることが想定され、新しい通信システムである人体通信の実用化が進むと共に、人体に対する電磁波の影響について検討が進んでいる。そこで、アンテナ工学、環境電磁工学、医用工学、人間工学の研究・開発の観点から人体周辺の電波利用に関する現在の技術動向をご紹介頂くとともに、技術課題と将来への展望について議論を行う。

総合大会 URL：http://www.toyoag.co.jp/ieice/G_top/g_top.html

【5】AP 研副委員長の戯言

先月の金沢での AP 研は、気温も低く、あられ交じりの暴風雨、雷雨と大変でしたが、楽しんでいただけたでしょうか。雪吊りの兼六園や武家屋敷散策を楽しみにして来られた方にはお気の毒でした。しかし、研究会が終了した次の日はうって変わってポカポカといい天気でしたが、...。「雪男」、「雪女」、あるいは「嵐を呼ぶ男」がいらっしゃっていたのでしょうかね、というのは冗談で、No. 21 / 2008 年 1 月号にも書きましたように、一日の中ですべての気象を体験でき、どんなに天気が良くても傘が手放せないのが、カニの季節の金沢の気候というものです。これに懲りず、またお越しく下さい。

12 月の研究会の夜は AP 研大忘年会ですね。それでは、よいお年をお迎えください。



<問合せ先>

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 牧野滋（金沢工業大学）

E-mail：ap_ac-chair@mail.ieice.org

AP-NET：AP 研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録は AP 研 HP にて

AP 研 HP：<http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/>